

国立天文台の 機関紙が紹介

駒工サイエンス同好会



電波望遠鏡製作の活動が紹介された冊子を手にする駒ヶ根工業高校のサイエンス同好会

干渉計型電波望遠鏡の製作で

太陽観測に使う干渉計型電波望遠鏡の製作に取り組んでいる駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）サイエンス同好会の活動が、国立天文台が発行する電波天文漫画「アルマーの冒険」で紹介されている。表題は「高校生たちが作る太陽電波干渉計」で、同天文台のホームページなどで閲覧できる。（布袋宏之）

同校は創立50周年記念の一環で、2013年に同天文台野辺山宇宙電波観測所（南佐久郡南牧村）の指導で電波望遠鏡を製作。中庭に置いて太陽観測を続けている。現在は複数の望遠鏡を組み合わせて観測精度が上がる干渉計型の製作に取り組み、15年8月から同校情報技術科棟屋上で設

置作業を進めている。活動紹介は、同天文台の機関紙「国立天文台ニュース」の付録として不定期に発行するアルマーの冒険の第8回に掲載。直径1・2メートルのパラボラアンテナ4基を設置して干渉計として機能させようと、現在2基が組み上がっている状況と同好会の校外活動などを漫

画や写真で説明している。「干渉計で太陽を継続的に観測しようとする高校は全国でも珍しい」と同好会顧問の石澤育博教諭。完成時期は未定で、これまでに約40人の生徒が関わっている。電気科3年で会長の岩村勇弥さん（17）は「後輩たちが完成させてくれることを楽しみにしている。仲間を増やして取り組んでほしい」と話している。アルマーの冒険のバックナンバー（<http://www.nao.ac.jp/naoj-news/almar/>）参照。